

(別記)

月形町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約50%で、水田面積の残りは、小麦、大豆、飼料作物といった土地利用型作物と花き、果菜を主とする労働集約型作物となっている。営農類型は、水稲、花き、果菜等の専業の形態と、水稲＋土地利用型の形態と水稲＋労働集約型作物の形態が混在している。

農家の高齢化が進んでおり、農家戸数が減少するとともに、土地利用型作物が増加傾向にあり、施設園芸を含む地域の特色あるクリーン農産物の生産を維持するのが課題となっている。

また、小麦、大豆については、連作障害や排水不良等による収量や品質の低下を防ぐため小麦の大豆間作栽培を含む輪作体系の構築や排水対策の徹底が課題となっている。

水稲面積の維持、水稲＋土地利用型作物の複合経営への誘導、花き、果菜等の特産品の計画的な生産を目指し、農地中間管理機構の事業を活用して担い手への集積を図り、水稲、土地利用型作物、労働集約型作物それぞれに振興を図っていく必要がある。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

売れる米作りを実践するには、高品質米・良食味米生産のための透排水性の向上を推進し、消費者ニーズに応じる品質・数量・信頼の確保が重要である。近年の需要動向、生産実績や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。

(2) 非主食用米

水張り転作は、加工用米、備蓄米を優先的に取り組むこととする。

加工用米、備蓄米の契約が困難になった場合には、飼料用米、米粉用米の生産を行い水田機能の維持および生産力の確保を図る。

ア 飼料用米

実需者との契約に基づき作付し、飼料用米生産コスト低減マニュアルを参考に適切な管理を行い収量の向上を図る。

イ 米粉用米

実需者との契約に基づき作付し、適切な管理を行い収量の向上を図る。

ウ WCS 用稲

地域の実需者との契約等に基づき作付し、稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアルを参考に適切な管理を行い収量の向上を図る。

エ 加工用米

主食用米の需要減が見込まれる中、産地交付金を活用しつつ、加工用米を水張り転作の中心作物として位置づける。

加工用米の生産にあたっては、加工米飯向け等としてメーカー等との結びつきを強化しながら効率的な生産体系を目指す。

オ 備蓄米

備蓄米の総量は今後、増加する予定はないので面積拡大は想定し難いが、産地交付金を活用しつつ実需者の需要動向を勘案し作付けする。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦・大豆については弾丸暗きょ等による排水対策に取り組ながら、作付面積を拡大する。

また、連作障害を回避するため、輪作体系を確立し農業改良普及センター提供の営農技術情報を参考に収量及び品質の向上を図る。

飼料作物については、地域の実需者との契約等に基づき作付し、農業改良普及センター提供の営農技術情報を参考に適切な管理を行い収量の向上を図る

(4) そば、なたね

実需者との契約に基づき作付し、明きょ、心土破碎等による排水対策に取り組適切な管理を行い収量の向上を図る。

(5) 野菜

「メロン」、「スイカ」、「カンロ」、「トマト」、「ミニトマト」、「南瓜」を振興品目として作付面積の維持、収量及び所得の向上を目指す。

農地の有効利用を図るため上記以外の野菜についても販売を目的とした作付を行う。クリーン農業に取り組む、付加価値化を図る。特に「メロン」、「スイカ」、「カンロ」、「南瓜」はYes!Clean制度を活用し、月形ブランドの確立を図る。「ミニトマト」については、労働力の一部集約によるコスト低減、品質の統一による月形ブランドの確立を図る。

(6) 花き

産地の維持を図るため「月形の花」の作付面積の維持、収量及び所得の向上を目指す。クリーン農業に取り組む、付加価値化を図る。

(7) 豆（大豆・黒大豆を除く）、販売作物、地力増進作物

農地の有効利用を図るため、販売を目的とした豆（大豆を除く）や苗等の販売作物の作付を行う。

連作障害の回避、地力増進を目的とした地力増進作物の作付を行う。

(8) 不作付地の解消

地域振興作物として景観形成作物を作付けし、不作付地を未然に防ぐ。

(9) 耕畜連携

地域の畜産農家と耕種農家の契約等に基づき作付された粗飼料作物を、飼料として給餌し、その排せつ物から生産された堆肥をほ場へ散布する資源循環の取組と、省力・低コスト管理でき、転作田を活用する水田放牧の取組を行う。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 31 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	1 1 4 3. 0	1 1 3 9. 0	1 1 2 5. 0
飼料用米	8. 0	8. 0	7. 0
米粉用米	0. 0	0. 0	0. 0
WCS 用稲	4. 0	9. 0	1 3. 0
加工用米	3. 6	0. 0	0. 0
備蓄米	0. 0	0. 0	0. 0
麦	3 3 9. 6	3 3 8. 0	3 4 0. 0
大豆	3 9 6. 1	4 0 9. 0	4 1 0. 0
飼料作物	3 2 1. 1	3 2 2. 0	3 2 0. 0
そば	9. 5	1 8. 0	1 8. 0
豆類(大豆・黒大豆を除く)	1. 0	1. 1	1. 0
地力増進作物	3 5. 4	1 2. 0	1 3. 0
その他作物	1 4. 3	2 6. 0	2 9. 5
その他地域振興作物	1 2 7. 6	1 2 6. 1	1 3 1. 7
花き	5 7. 5	5 5. 0	5 7. 6
メロン	9. 4	9. 1	9. 5
スイカ	5. 3	5. 4	5. 5
カンロ	2. 8	2. 8	2. 9
トマト	1. 8	1. 8	1. 9
ミニトマト	3. 3	3. 7	3. 8
南瓜	3 8. 2	3 8. 3	3 8. 5
その他販売野菜	9. 3	1 0. 0	1 2. 0

4 平成 29 年度に向けた取組及び目標

① 産地戦略枠と従来枠について

取組番号	対象作物	取組	分類※	指標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)
1	麦	小麦・大豆新規圃場作付	イ	製品単収	377kg/10a (201.3ha)	380kg/10a (222.5ha)
	大豆			製品単収	220kg/10a (264.1ha)	250kg/10a (246.1ha)
2	麦	小麦・大豆品質向上	イ	製品単収	377kg/10a (339.6ha)	380kg/10a (337.1ha)
	大豆			製品単収	220kg/10a (394.3. ha)	250kg/10a (406.4ha)
3	花き	クリーン農業	ウ	実施面積	29.9ha	30.0ha
	野菜(メロン、スイカ、カボチャ、トマト、ミニトマト、南瓜)			実施面積	56.9ha	57.0ha
4	花き	特産品作付	ウ	実施面積	29.9ha	30.0ha
	野菜(メロン、スイカ、カボチャ、トマト、ミニトマト、南瓜)			実施面積	56.9ha	57.0ha
5	飼料作物	水田放牧	イ	実施面積	41.9ha	42.0ha
6		資源循環	イ	実施面積	82.2ha	82.3ha

※「分類」欄については、実施要綱別紙 15 の 2 (6) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成 30 年度以降の目標値を設定している場合は、「平成 29 年度 (目標値)」欄の右に欄を設け、目標年度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、() 内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

② 技術導入促進交付金について

(1) 技術導入促進交付金によって技術導入面積を拡大する革新技術

番号	革新技術名	期待される効果
1	大豆間作栽培技術	播種前までのほ場準備に要する労働時間を慣行より約10割削減
2	初冬播き栽培技術	砕土・整地から土壌改良材の散布までのほ場準備作業に要する労働時間を慣行より約8割削減
3	狭畦栽培技術	中耕除草、手取除草の中間管理作業に要する労働時間を慣行より約9割削減
4	直播栽培技術	種子の準備～播種・定植までの作業に要する労働時間を慣行より約9割削減

(2) 技術・作物ごとの29年度の技術導入面積及び30年度の技術導入目標面積別表のとおり

(3) 30年度に技術導入面積を拡大するための推進戦略

① 地区別の30年度技術導入目標面積

(単位: ha)

番号	協議会区域一円				計
1	200				200
2	35				35
3	110				110
4	16				16

② 技術指導体制

番号	革新技術名	技術指導体制
1	大豆間作栽培技術	空知農業改良普及センター本所、JA月形町資材課、マルダイ興産㈱
2	初冬播き栽培技術	空知農業改良普及センター本所、JA月形町資材課、マルダイ興産㈱
3	狭畦栽培技術	空知農業改良普及センター本所、JA月形町資材課、マルダイ興産㈱
4	直播栽培技術	日本甜菜製糖㈱由仁原料事務所、日農機製工㈱三川営業所、JA月形町資材課

③ 普及方策

番号1	大豆間作栽培技術
<ul style="list-style-type: none"> ・技術指導機関による技術指導・導入上の注意事項等の共有と導入の推進 ・生産者研究会との情報共有 	

番号2	初冬播き栽培技術
<ul style="list-style-type: none"> ・技術指導機関による技術指導・導入上の注意事項等の共有と導入の推進 ・生産者研究会との情報共有 	

番号3	狭畦栽培技術
<ul style="list-style-type: none"> ・技術指導機関による技術指導・導入上の注意事項等の共有と導入の推進 ・生産者研究会との情報共有 	

番号4	直播栽培技術
<ul style="list-style-type: none"> ・技術指導機関による技術指導・導入上の注意事項等の共有と導入の推進 ・生産者研究会との情報共有 	